＜徳島県　県土整備部　松野部長　ご挨拶＞

徳島県県土整備部、部長の、松野でございます。
本日は一般社団法人徳島県測量設計業協会の第47回の定時総会がこのように多くの皆さん方のご参加の下で盛大に開催されますことを、まず心からお喜びを申し上げたいと思います。
日頃から、県の行政、中でも県土整備行政にご協力いただきまして、本当に感謝をしております。
特に災害の現場など、緊急を要する現場をはじめとして、測量とか設計の場面がどうしても最初に来るものですから、皆さん方の日頃のご協力に対し本当に感謝をしております。

また、県と一緒になってですね、業界の方からご支援をしていただきまして、技術職員研修でありますとか、他の研修会のですね、開催のご協力をいただいておりまして、重ねてお礼を申し上げたいと思います。
先ほど水上会長からお話しがありましたとおり、業界全体が底上げされて新しい若い職員に入ってもらって全体を発展させていかないと、県全体、それから国全体の安全を守れないということがありますので、県としても引き続き皆さん方と一緒になって取り組んでいきたいと思います。

先ほど会長からも、それから関所長からも地震の話がございましたが、一時はですね、今回の能登半島地震を受けてフェーズが変わった、オーラが変わったということを最近よく申しておりまして、実は昨日も国のほうに要望に行ってまいりましたら、新聞に少し溢れていたと思うのですけれども、齋藤国土交通大臣を始めとして、鈴木財務大臣、それから特に県南道路の関係でありましたので、自民党の金子道路調査会長のところにも行きました。

それから今年先ほどお話があったとおりですね、国土強靱化法が昨年改正されて計画を作って法定計画で実施をしていくということで、今まで予算制度だったものがもう少し昔のそのモデルまでは戻らないかもしれないのですけれども、しっかりした根拠を持ってやりましょうということになっていて、実施中期計画を作るということになっていまして、これを財政当局と戦いになるものですから、新藤経済再生大臣のところ、国土大臣のところにも時間を取っていただいたので、多分、どの県よりも早く要望に行ってきたというふうに認識をしております。

やはり、いろんなところ当然、関所長のいる政府部局と一緒に仕事をしながら、それから当然国のほうから皆さんをもらいながら仕事をしないといけないわけでして、その中でいろいろ活動をしているという状況でございます。
協会さんとの関係でいきますと大規模災害時の協定を結んでおりまして、いろいろ訓練を

しているわけですけれども、実もその訓練をより実効性のあるものに少しずつ見直していこうという思いがありまして、いろいろ去年の 9 月の防災訓練でもそうでしたけれども、もう少しいろんな場面で皆さん方と少しある程度やってきたものもあるのですけれども、もう少しいろんな視点でやらなきゃいけないということもあるか、と思いますので、引き続きご協力いただきたいと思います。

県の予算につきましては、昨年度に比べて前年度に比べて 11 億円ちょっと増やした 591 億円で、特に補正予算で 16 億円の都道府県のリフェース予算もついていますので、707 億円ということで 1.01 倍ぐらいになっているのですけれども、昨今の公共事業についていうと、なかなか資源高とか人件費、人件費は逆に言うと、働き方改革で皆さん方にしっかりともらえるということも大事なものですから、今まで言うと、もう少し伸ばしていくということが必要なのかな、と。
それについては知事もそう思っていて、なかなか国全体の借金が多い中で、財務省に対してどれだけ言っていくのかということも、財務省に行ったときに官房長とかに話をしていましたけど、やはり事業料確保をしていくやっぱりそういうことが必要なのだろうなということを言っておりました。

せっかくの機会ですので、入札とか契約制度の改正につきまして少しご紹介をしたいのですけど、働き方改革を推進するという観点で、現場の集約化に取り組むというのは必須だと思っております。
もちろんいろいろと、それぞれ現場の需要もあるものですから、柔軟にできることはやると思うのですけども、全国で取り組んでいる中で四国が遅れていたり、とか徳島が遅れていたり、ということにならないように最大限努力をしていきたいと思っております。

担い手確保モデル工事の発注者指定型の対象を全ての道路工事でありますとか、関係の営繕課が発注する新築工事とか改築工事、それを広げていこうということを取り組んでおります。道路工事の中では、いろいろな工期を設定するということも必要になってくるということで、実工事日数であるとか、どこかとある月の日数なども見直しをしていくということもしております。工事書類の提出期間の延長などもしているので、ここは皆さん方が声を聞きながら引き続き改善を努めていきたいと思います。

生産性向上の話も先ほどございました。
ICT 活用の中で、発注者の指定型の試行をはじめとして、他にも民間主導業とかいろいろなことを国レベルでもやっているのですけれども、なかなか大きいところから始まってそれが徐々に徐々にという形だと思うのですけれども、それをやっていかないと、業界全体が当然測量設計だけじゃなくて、施工の現場も含めてだと思うのですけれども回らない時代になっているのだろうと思っています。

逆にいうと、それに取り組んでいないと思うと学生さんからするとそこはなかなか目を向けてくれない時代になっちゃうのではないかな、ということをヒシと感じておりますので、県の方もいろんな大学に公務員になってくださいとか、あるいは建設に関心を持ってください、というので、いろいろ就職担当の方にお願いに行っているのですけれども、なかなかそういう目を向けてくれなくなっているという非常に危機感を持っています。
ここも測量設計業協会の皆さんと一緒になって、あるいはその建設業界全体が一体となって取り組みをしなければいけないと思っております。

長くなりましたけれども結びといたしまして、今後の協会のますますのご発展、それから今日ご参加の会員の皆様のご健勝ご活躍を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉としたいと思います。
本日はおめでとうございました。